

第2回PI評価委員会での主な指摘事項と対応

分類	委員会での主な指摘事項	指摘への対応(案)
P Iの進め方	<ul style="list-style-type: none"> 追加的に実施したラジオ、テレビは結果的にはよかった。逆に、計画的に実施する必要がある(崎山委員) 広報活動のメッセージに統一性がない。いつ、どのメディアで、何を言うか、全体プランを立てるべき(廻委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 「那覇空港を一緒に考えましょう」をキーワードに広報プランを作成し、計画的に実施する プラン以外の手法も都度検討し、追加的に実施する
	<ul style="list-style-type: none"> かかった時間、エネルギー、費用と、その効果を整理し、ステップ2に活かしてはどうか(廻委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ステップ1の結果を整理し、対効果の小さい手法を見直すとともに、対効果の大きい手法を重点的に実施する
	<ul style="list-style-type: none"> 県民への周知、広報としてはよくやっている(上間委員) 関心のある方からの意見収集はうまくいっている(大城委員) 意見の言いたい人に、言う方法を伝えることが大切(大城委員) 普段考えていない人に考えてもらえたら、なお良い(廻委員) 	
新聞広告の使い方	<ul style="list-style-type: none"> 「伝える」と「伝わる」は違う。情報を少なくして、ビジュアル的に引きつける工夫が必要(崎山委員) 資料を請求してもらうような使い方がよい(廻委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ステップ2では、あまり情報を詰め込みすぎず、資料請求を誘うよう工夫する 記事として取り扱ってもらう等、県民の理解を深めるツールとしても利用していく
説明会のあり方	<ul style="list-style-type: none"> 圧倒的に男性の参加が多い。女性が参加しやすい工夫が必要(崎山委員) 文化的な講演会をすると8割方が女性(上間委員) 文化イベントとセットにしてはどうか(廻委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 女性団体が主催するイベントに参加し説明する等、女性の声を拾えるよう工夫していく

分類	委員会での主な指摘事項	指摘への対応（案）
広報誌の使い方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一番コストのかからない広報誌が、一番大きな効果をだしている。今後も範囲を広げて継続したほうがよい（大城委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市広報誌は、空港周辺自治体に限定せず、全市町村に対して掲載を依頼する ・ その他行政広報紙については、掲載回数を増やす等、最大限に利用する
認知度の調査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料請求の数が、P I に対する認知度の証明になる（廻委員） ・ 認知度を正確に調査するのであれば、無作為サンプルに対して実施した方がよい（廻委員） ・ 性別、年齢層、職業層から代表してサンプリングする等の科学的アプローチを取り入れると効率が良い（上間委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最終的に、県民にどれほど浸透したのか、何らかの方法で把握することは必要 ・ 認知度が把握できる質問をアンケートに組み込む、またはインターネットのアクセス数を記録する等により、補足的に実施する